

JAPANTEX'98

TDA [TEXTILE DESIGN WAVE '98-'99]

JAP展 準備委員会 委員長 杉山哲三

委員 大森克夫、小川久、中山陽子、福田行雄、古屋興一、魚谷誠一郎、桜井照也、今野文雄、小沼京子、下重泰江、江草正博、吉村東一、中島良弘、古閑崇尚、真木友子、都筑聖子、田中恵子/18名

今回でJAPANTEXのイベントとして、N.I.Fからの委託事業は3回目となる。第一回目のメンバーが引き継ぎ昨年4月からスタートした。5月N.I.Fに対して提案を行ってきたが、N.I.Fサイドの位置づけが揺れ動き、正式に決定したのは7月頃となったが、トレンドそのものの研究は、5月よりスタートしていた。メンバーより各方面の情報を幅広く集めた。前回の展示はトレンドにクリエイションをミックスした関係で判りにくかったとの反省をもとに、いかに「判り易く」がN.I.Fとの間での大きな課題となった。

・判り易くを目標に

ターゲットの主体をどこに置くかで論議のまよになったが、主なターゲットは企業の営業担当、物作り担当、小売り業、コーディネーターとした。単に、デザイントレンドだけでなく、現状のマーケットの実態も表現したいということになった。トレンドブックの中で従来も行ってきたが、その場で説明できないので、主要な点をビジュアルなパネルによる表現で、又、トレンドについてもブック(印刷物)とビデオ(映像)で多様な方法で説明することになった。

・若いメンバーの増強—異世代間の交流を保ち乍ら従来のメンバーに加え新戦力として若いメンバーに参画してもらい委員会の雰囲気も変わり、準備作業を通じて世代の異なるデザイナーの交流にもなった。多くの会員が参加できるこうした場をもっと増やして行くきっかけづくりになっていくのではないか。

・総体的評価—全体的にきれいにまとまり、見易く、判り易かった。情報集積型のトレンドではあったが、4つのテーマ各々を色をポイントにきれいな展示であった。素材も手に触れることができて良かった。特にパネル展示の「今日のインテリア」～ソフトファニシングの「もっと手軽に、もっと自由に」は熱心にきちんと見ていく人が多かった。N.I.F及び見た方々には概ね好評であったが、一方で来場者の割りに見た人が少なかったのではないかと(動線の問題。)又、T.D.Aメンバー内の意見として「トレンドとしては先進性に欠けた」という反省的意見もあった。

・今回のトレンド主張は、クリエイティブな斬新性はないが、現実のインテリアマーケットを理解してもらうため、パネルの表現を行った。

